



「広汎性発達障害」とは？

対人関係や社会性の発達に偏りがあり、コミュニケーションをとることが苦手な子パターンを取ることが多く、集団の中で様々な困りごとを抱えがちです。会話を言葉を読む」ことを難しく感じてしまいます。

また、感覚の過敏さ、もしくは鈍麻さを持つ場合があります、五感から入る情報に特別

それぞれの障害の特性

知的障害

広汎性発達障害(PDD)

- 社会性とコミュニケーションの障害
- 限定的な興味やこだわり行動
- 不器用さ
- 感覚のゆがみ(過敏さ・鈍さ)

注意欠陥多動性障害(ADHD)

- 集中力・注意力の障害
- 多動や落ち着きのなさ
- 衝動的な行動

学習障害(LD)

- 知的な遅れがないのに読み・書き・計算等が極端に苦手

✓ Check!

こんなこと、ありませんか？

- 友達ができにくい
- 一方的に話す
- 一人でいることが好き
- 人の気持ちを想像することが苦手
- 空気を読むことが苦手



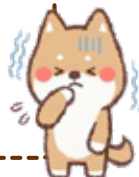
社会性とコミュニケーションの障害

- 関心のある分野に非常に詳しい
- 特定の行動にこだわりやパターンがある
- ルールやマニュアルに忠実
- 予定外のことでパニックになる



限定的な興味やこだわり行動

- 光を異様に眩しがる
- 特定の音が苦手で耳をふさぐ
- 味や匂い、触感に敏感で偏食がある
- 触られることを異様に嫌う



感覚のゆがみ



が多いです。特定のものごとに対するこだわりが強く、独自の考え方に基づく行動通りにしか受け取ることができず、相手の感情を読み取ることや、いわゆる「空気」の配慮を必要とする子もいます。

広汎性発達障害の特性

社会性と
コミュニケーションの障害
他者とのやり取りや、相手の心
情の理解、暗黙のルールの
理解などが苦手。

限定的な興味やこだわり行動

興味があることとないことの
差が大きい。決まったパターンや
行動へのこだわりがある。

感覚のゆがみ

特定の音や匂い、食べ物、
触覚などに極端に敏感。
もしくは、極端に鈍感。

関わりのポイント

できるだけ簡潔で短い言葉で伝える。

抽象的な言葉よりも具体的な言葉で伝える。

例：[ちょっと待ってね → 3分だけ待ってね あそこにしまってね → 赤い箱にしまってね]

言葉だけで難しい場合は、実物やイラストなど目で分かる方法で伝える。

否定的な言葉でなく、肯定的な言葉で伝える。

例：[走っちゃダメ！ → 静かに歩こうね どうしてできないの → こうするとうまくいくよ]

予定などは事前に伝えたり、スケジュール表と一緒に確認する。

いつ・どこで・誰と・何をするのかということや、終わった後のことがわかると安心できる。

叩いたり怒鳴ったりせず、何がいけないのかを静かに伝える。

つい感情的に怒ってしまった時は、謝ってから怒った理由を伝える。

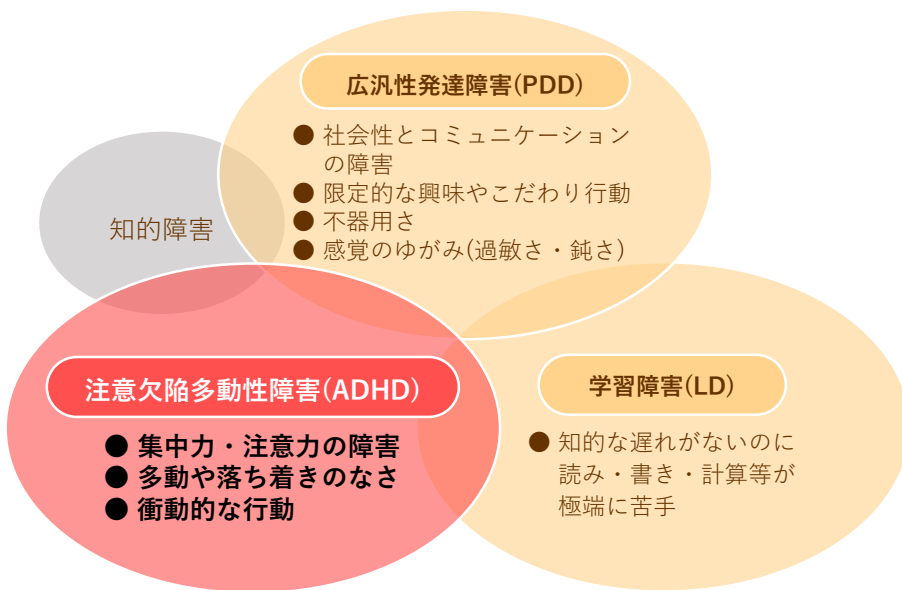


「注意欠陥多動性障害」とは？

年齢相応でない不注意，多動性，衝動性を特徴とする発達障害です。一つのことに出でしまい，お友達とトラブルになりやすい子もいます。

こういった特性は障害という認識を持たれにくいいため，周りから「乱暴」「忘れていない」と誤解を受けることがあります。

それぞれの障害の特性



こんなこと，ありませんか？

- 授業中に他のことが気になる
- ケアレスミスが多い
- 提出物が出せない
- 忘れもの，失くしものが多い



- 部屋がいつも散らかっている
- いつもそわそわしている
- 動いてはいけない場面で動き回る
- 常に体を揺らしたり手遊びしたりする



- 突然話し始める
- 言葉より先に行動に出る
- 友達とトラブル(喧嘩)になりやすい
- 計画的に物事を進められない
- 些細なことで怒ったり泣いたりする





集中するのが苦手だったり、そわそわして落ち着きがなかったり、考える前に手が
ぼう」「行儀が悪い」といった印象を抱かれやすく、その保護者も「しつけができ

注意欠陥多動性障害の特性

注意力・集中力の障害

一つのことには集中できない。
考えがまとまりにくい。
大事なことも忘れてしまう。

多動や落ち着きのなさ

関心の移り変わりが激しく、
じっとしていることが苦手で、
常に体が動いてしまう。

衝動的な行動

考える前に行動してしまう。
人や物に当たってしまう。感情
のコントロールが苦手。

関わりのポイント

注意力を高めて集中力が続きやすい環境をつくる。

例：〔 テレビやオーディオを消す ・ 関係ないものや必要ないものを片づける ・ 周りのものに
気を散らされないように、パーテーションなどで場所を仕切る 〕

注意や興味を引きつけるなど、気づききっかけをつくる。

例：〔 声をかける時は名前を呼んでから要件を言う ・ 目につく場所にスケジュール表や、メモ
を貼っておく ・ タイマーやアラームをセットしておく 〕

多動や衝動的な行動を感情的に叱らない。

まずは、お子さまや、周りの人に危険がないか確認し、危険な場合は、安全を確保してから話しかける。話しかける時は名前を呼び、目を見て注意を引きつけてから、穏やかに、落ち着いて、いけない理由を伝える。

できていることを認め、ささいなことでも褒める。

結果よりも意欲や過程を見て「がんばっているね」「ありがとう」などを伝える。

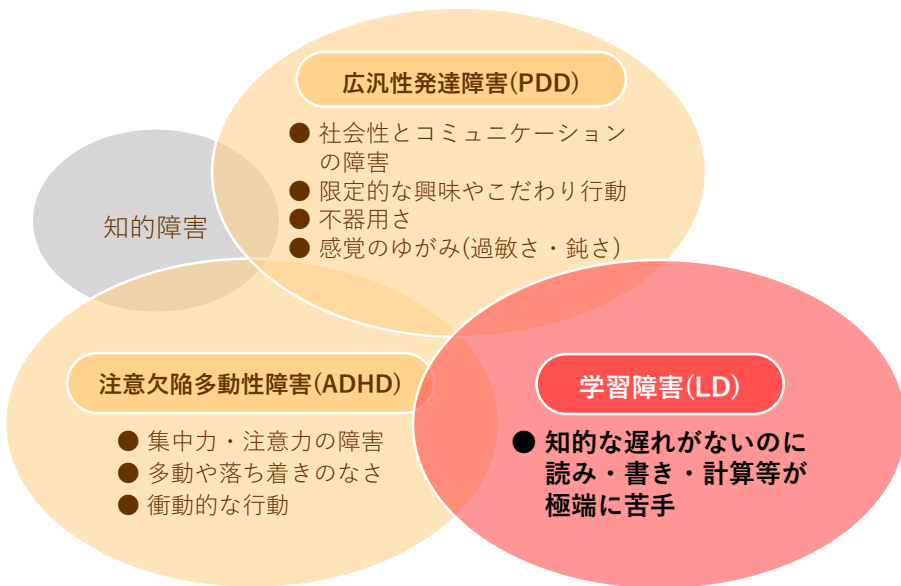
お薬で症状を改善できる場合もあるので、主治医や専門医に相談する。



「学習障害」とは？

知能に問題(知的障害)がなく、目も見え、耳も聞こえていて、学習環境や本人の意に非常に時間がかかったり、成績の偏りが大きすぎるなどの支障が出てしまう障害で、注意欠陥多動性障害と同じく、こういった特性は障害という認識を持たれにくいことを喪失し、勉強の意欲がなくなるなど、悪循環に陥ってしまうこともあります。

それぞれの障害の特性



こんなこと、ありませんか？

- 1文字ずつ読めても単語になると読めない
- 形の似た文字を読み間違う([め]と[ぬ]等)
- 小さい[や行]や小さい[つ]が読みづらい
- 音読に非常に時間がかかる



- 書き順や字の形が覚えづらい
- 形の似た文字を書き間違う([め]と[ぬ]等)
- 鏡文字になってしまう
- 板書が難しく時間内に写し終わらない



- 簡単な問題に指を折って計算する
- 繰り上がり・繰り下がりが理解しにくい
- 九九が覚えにくい
- 定規や計量器の目盛りを読むのが苦手
- 図形などを正しく描き写せない





欲にも問題がないにもかかわらず、「読み書き」や「計算」など、特定の領域の習得

す。
め、「なまけている」「努力が足りない」などと誤解を受けやすく、子どもは自信

学習障害の特性

読字障害

文字を音に変えることに難しさを感じるため、文章を読むのに時間がかかり、読んでも内容が頭に入りにくい。

書字障害

文字の形を正しく捉えることや、形を正しく覚えておいたり、覚えた文字を思い出したりすることが苦手。

計算障害

数量のイメージを持ちにくい、数量と数字を一致させることや、図形・空間の認知が苦手。

関わりのポイント

苦手なことを正しく把握する。

普段の学習の様子を見て気になることがあれば、担任の先生等に早めに相談する。お子さまが何に困っているのか正しくわかれば、学習方法を工夫することができる。

子どもに合った学び方を探し、工夫する。

例： 読字障害の場合…ふりがなをふる・行間を空ける、単語や文節に区切り線を入れる・文章の一行ごとに下敷きや定規を当てる・音声読み上げソフト等を使用する(目より耳から情報を入れる)
書字障害の場合…大きいマス目のノートや、十字の補助線付ノートを使う・漢字は書き順などよりも、意味がわかることを優先する
計算障害の場合…お菓子を分ける、おつりの計算など、普段から身近な数字に触れる・九九の表をつくる(耳より目から覚える)

苦手なことを補う道具を使う。

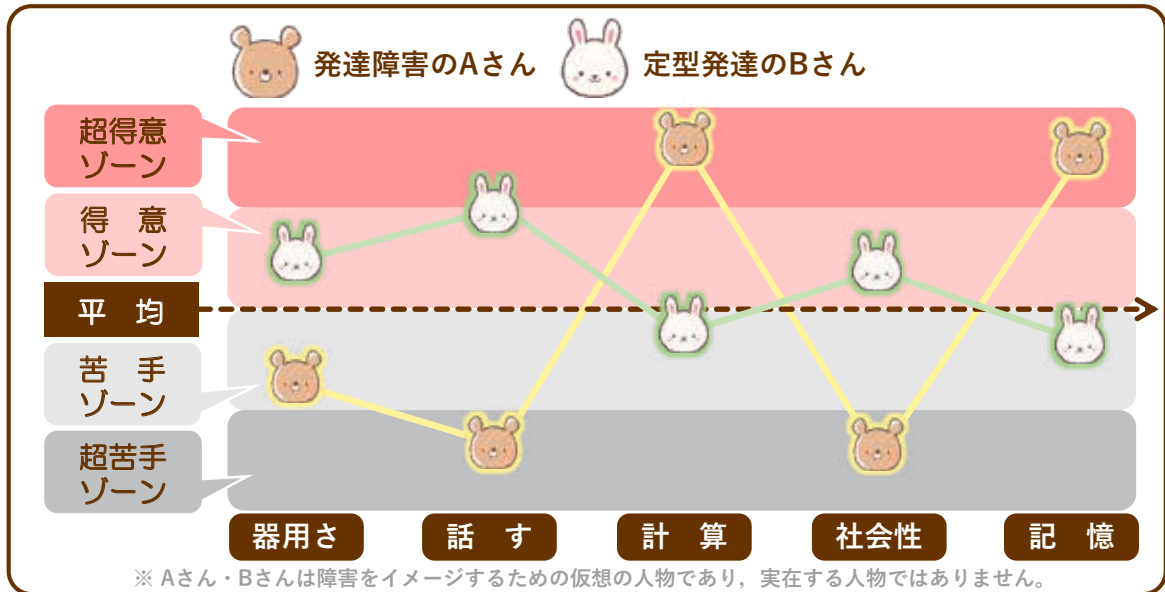
将来的には、計算機やタブレット、パソコンなどの電子機器を活用して苦手を補う方法もある。お子さまによっては、学生の頃から学習のために電子機器を使用することが望ましい子もいる。学校で電子機器の使用を希望される場合は、担任の先生等とよく相談し、他の先生や生徒に、お子さまが電子機器を使用する必要性について、十分理解を得る必要がある。



「発達障害」は「凸凹発達」

お子さまの発達の凸凹はひとりひとり違うので、困りごともお子さまによって違いの発達の凸凹の差がとても大きいのが特徴です。発達障害のお子さまに限らず「みんなをなくしてしまうかもしれません。本人の興味関心のあることに注目して得意なことを考えましょう。

発達障害と定型発達



上の図は、発達障害のAさんと、定型発達のBさんの得意なことと苦手なことを折れ線グラフで表したものです。Aさん、Bさんは同じ小学校で同じ学年のお子さまです。Bさんに比べて、Aさんの折れ線は凸凹が大きいです。

	Aさん	Bさん
器用さ	ボタンのある服や工作の細かい作業が苦手。	手先を使うことが好きで、折り紙が得意。
話す	気持ちをうまく表現できず、どもってしまうこともある。	友達とおしゃべりが大好き。
計算	平均よりも早く正確に、計算問題を解くことができる。	計算問題は、平均よりも少し時間がかかることがある。
社会性	相手の気持ちを考えず、何でも率直に発言する。(空気が読めない)	相手の気持ちを考えながら、言葉を選んで話す。(空気を読む)
記憶	かなり昔のことや、他の子が気に留めない些細なことを覚えている。	印象に残った思い出や、授業で習ったことなどを覚えている。

得意なことと苦手なことの特徴から、Aさんは「広汎性発達障害」の特性を強く持っていることが伺えます。凸凹を知れば、Aさんの苦手(凹)をカバーする方法が見えやすくなったり、言動の理由やいいところがわかったりして、周りの人が安心できます。



ます。発達障害でない(定型発達)のお子さまと比べると、発達障害のお子さまは、こ
なと同じようにする」ことにこだわりすぎると、お子さまは窮屈さを感じ、やる気
を伸ばし、苦手なことを工夫して補う、お子さまの凸凹に合うオーダーメイド生活

発達障害の凹と凸

発達障害のお子さまは苦手(凹)だけでなく、得意(凸)もたくさん持っています。

また、ある場面ではマイナス(凹)になることも、場面が変わればプラス(凸)になる可能性も
大いに秘めています。色んな面からお子さまを観察することが大切です。

- こだわりが強い、融通がきかない
- じっとしてられない
- 暗黙のルールがわからない
- あきっぽい
- ささいなことが気になり、集中力が切れやすい
- 興味が極端に偏っている
- 協調性がなく、マイペース
- 人づきあいが苦手
- 音や匂い、味など、感覚が過敏
- 読み書き計算が極端に難しい

- ルールを守る、一貫性がある
- フットワークが軽い
- 自分の意見を率直に言える
- 色んなことに関心を持てる
- 他の人が気づかないことに気づける
- 興味ある分野のスペシャリスト
- おおらか、周りに流されない
- 一人で過ごすことができる
- 音や匂い、味の違いがよくわかる
- IT機器の活用で問題なく生活できる

* 上記は特性の一例です。発達障害の方すべてに当てはまるとは限りません。

特性を持つ子も持たない子も

どんな子にも、程度の違いはあるものの、必ず発達の凸凹があります。その凸凹に合わせた
ひとりひとり違う関わり方が必要なのももちろんですが、発達障害の特性を持つ・持たないに
関わらず、ぜひ心に留めていただきたいのが、次の3点です。

① 情報や環境を整理

予定や物事の手順は事前に簡潔に伝える。

その時、伝え方も本人にわかりやすいように工夫(絵や文字など)する。

また、本人がストレス性の刺激を受けることが少ない安心できる空間をつくる。(決めておく)

② 気持ちに寄り添う

今できていることを認めて褒めたり、本人の得意なことや、興味関心の対象を見つけることで、自尊心を大切に、育てる。

注意する時は決して人格を否定せず、本人の気持ちを聞いてから納得できるように説明する。

③ ひとりで悩まない

専門機関には支援につながる情報を持った専門員がいるので、困りごとがあれば抱え込まずにまず相談を。

また、本人の特性の変化や、ライフステージの段階等によって必要な支援が変わるため、その都度、学校や専門機関へ相談を。

次のページから、発達障害のお子さまに関連する支援や制度について、ご紹介します。